

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 16 年 8 月 26 日 (2004.8.26)

【公表番号】特表 2000-505290 (P2000-505290A)

【公表日】平成 12 年 5 月 9 日 (2000.5.9)

【出願番号】特願 平 9-528314

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

A 0 1 H 5/00

C 0 7 K 14/415

C 1 2 N 5/10

C 1 2 P 21/02

// (C 1 2 N 15/09

C 1 2 R 1:91)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 0 1 H 5/00 A

C 0 7 K 14/415

C 1 2 P 21/02 C

C 1 2 N 5/00 C

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 R 1:91

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 6 月 13 日 (2003.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成15年6月 13日

特許庁長官 太 田 信一郎 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第528314号

2. 補正をする者

名称 プラント バイオサイエンス リミティド

3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751) 石 田 敬



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙の通り補正します。

7. 添付書類の目録

請求の範囲

1通



方 式 査 査



請求の範囲

1. 配列番号2のアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む核酸単離物。
2. コード・ヌクレオチド配列が配列番号1のコード・ヌクレオチド配列を含む、請求項1記載の核酸。
3. 配列番号1のコード・ヌクレオチド配列の1つ以上のヌクレオチドの追加、置換および／または挿入により、コード・ヌクレオチド配列が突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体を含む、請求項1記載の核酸。
4. 配列番号2に示す品種シロイヌナズナのG A I アミノ酸配列の突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体の配列であるアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を有する核酸単離物、あるいは別の品種の相同体またはその突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体であって、前記突然変異体、対立遺伝子、誘導体、形質転換体または相同体の1つ以上のアミノ酸が第4図のアミノ酸配列と挿入、欠失、追加および／または置換によって異なり、植物中での前記核酸の発現が該植物の成長の阻害をもたらし、該阻害がジベレリン（GA）によって拮抗される核酸単離物。
5. 植物中での前記核酸の過剰発現が該植物に矮性表現型を付与し、その矮性表現型がGA処理によって変更可能である、請求項4記載の核酸。
6. 前記ポリペプチドが配列番号2の位置27～43の17個のアミノ酸配列を含む、請求の範囲第4項または第5項による核酸。
7. 配列番号2の位置27～43の17個のアミノ酸配列中の残基と対応する位置で少なくとも10個の残基が類似性を有する17個のアミノ酸残基の近接配列を前記ポリペプチドが含む、請求項4または5記載の核酸。
8. 配列番号2の品種シロイヌナズナのG A I アミノ酸配列の突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体の配列であるアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を有する核酸単離物、あるいは別の品種の相同体またはその突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体であって、前記突然変異体、対立遺伝子、誘導体、形質転換体または相同体の1つ以上のアミノ酸が配列番号2のアミノ酸配列と挿入、欠失、追加および／または置換によって

異なり、植物中での前記核酸の発現が該植物にG A I 非発現突然変異体表現型を補足し、このような表現型がパクロブトラゾールの矮性効果に耐性である核酸単離物。

9. 前記植物がシロイヌナズナである、請求項4～8のいずれかに記載の核酸

。

10. 配列番号2の位置27～43の17個のアミノ酸配列あるいは配列番号2の位置27～43の17個のアミノ酸配列中の残基と対応する位置で少なくとも10個の残基が類似性を有する17個の近接アミノ酸配列の欠失を除いて請求項8記載の核酸によってコードされるアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を有する核酸単離物。

11. 1つ以上のアミノ酸の挿入、欠失、追加および／または置換によって、配列番号2の品種シロイヌナズナのG A I アミノ酸配列あるいは別の品種の相同体の突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体の配列であるアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を有する核酸単離物であって、植物中での前記核酸の発現が該植物にジベレリン非応答性の表現型を付与する核酸単離物。

12. ポリペプチドが、配列番号2の位置27～43の17個のアミノ酸が欠失した配列番号2のアミノ酸配列を含む、請求項11記載の核酸。

13. コード・ヌクレオチド配列が、配列番号1のコード・ヌクレオチド配列であるが配列番号2の位置27～43のアミノ酸をコードするヌクレオチドが欠失した配列を含む、請求項12記載の核酸。

14. コード・ヌクレオチド配列が、1つ以上のアミノ酸の挿入、欠失、追加および／または置換によって、配列番号1のコード・ヌクレオチド配列であるが配列番号2の位置27～43のアミノ酸をコードするヌクレオチドが欠失した配列の突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体の配列であるアミノ酸配列を含む、請求項12記載の核酸。

15. 配列番号2の位置27～43の17個のアミノ酸配列の欠失、および1つ以上のアミノ酸の挿入、欠失、追加および／または置換によって、ポリペプチドが配列番号2のアミノ酸配列の突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転

換体の配列であるアミノ酸配列を有する、請求項11記載の核酸。

16. 前記植物がシロイヌナズナである、請求項11～15のいずれかに記載の核酸。

17. 1つ以上のアミノ酸の挿入、欠失、追加および／または置換によって、配列番号2の品種シロイヌナズナのGAIアミノ酸配列の突然変異体、対立遺伝子、誘導体または形質転換体の配列であるアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を有する核酸であって、該ポリペプチドが配列番号4、配列番号6、配列番号8または配列番号10のアミノ酸配列を有する核酸。

18. 前記コード・ヌクレオチド配列が、配列番号3、配列番号5、配列番号7または配列番号9の配列である、請求項17記載の核酸。

19. 前記コード・ヌクレオチド配列からの発現の調節配列をさらに含む、請求項1～18のいずれかに記載の核酸。

20. 前記調節配列が誘導可能なプロモーターを含む、請求項19記載の核酸。

21. 転写の調節配列の調節下にあり、かつ、前記コード配列の発現のアンチセンスまたはセンス調節（「コサプレッション」）での使用に適した、コード配列の少なくとも14個の近接ヌクレオチドの配列と相補的なヌクレオチド配列または請求項1～15のいずれかに記載の核酸のコード配列に相補的な配列を有する核酸単離物。

22. DNAであって、前記相補的なヌクレオチド配列がアンチセンス転写の調節配列の調節下にある、請求項21記載の核酸。

23. 前記調節配列が誘導可能なプロモーターを含む、請求項22記載の核酸。

24. 植物細胞の形質転換に適し、請求項1～23のいずれかに記載の核酸を含む核酸ベクター。

25. 請求項1～23のいずれかに記載の異種性核酸を含む宿主細胞。

26. 微生物である請求項25記載の宿主細胞。

27. 植物細胞である請求項25記載の宿主細胞。

28. 非相同の前記核酸をそのゲノム内に有する請求項27記載の植物細胞。

29. 半数体ゲノムにつき1つを超える前記ヌクレオチド配列を有する請求項28記載の植物細胞。

30. 植物、植物の一部または植物胎芽、あるいは植物の抽出物または派生物に含まれる、請求項27～29のいずれかに記載の植物細胞。

31. 請求項25～30のいずれかに記載の細胞を産生する方法であって、前記核酸を形質転換によって細胞へ取り込む段階を含む方法。

32. 核酸が安定してそこに組込まれるようにその核酸を細胞ゲノム核酸と組換える段階を含む、請求項31記載の方法。

33. 1個以上の形質転換細胞からの植物の再生を含む、請求項31または32記載の方法。

34. 請求項27～29のいずれかに記載の植物細胞を含む植物。

35. 有性または無性で繁殖させた子、請求項31記載の植物のクローンまたは子孫、あるいは前記の植物、子、クローンまたは子孫の任意の一部または胎芽である植物。

36. 請求項35記載の植物の一部または胎芽、あるいは抽出物または派生物。

37. 植物を作出する方法であって、請求項1～24のいずれかに記載の核酸を植物細胞に組み込む段階と、前記植物細胞から植物を再生する段階を含む方法。

38. 前記植物細胞から再生した植物の子または子孫を有性または無性で繁殖させるか成長させる段階を含む、請求項37記載の方法。

39. 植物の特徴に影響を及ぼす方法であって、植物の細胞内で請求項1～3のいずれかに記載の異種性核酸からの発現を引き起こすか可能にする段階を含む方法。

40. 植物の特徴に影響を及ぼす方法であって、植物の細胞内で請求項4～7のいずれかに記載の異種性核酸からの発現を引き起こすか可能にする段階を含む方法。

41. 植物の特徴に影響を及ぼす方法であって、植物の細胞内で請求項8または9記載の異種性核酸からの発現を引き起こすか可能にする段階を含む方法。

42. 植物の特徴に影響を及ぼす方法であって、植物の細胞内で請求項10～16のいずれかに記載の異種性核酸からの発現を引き起こすか可能にする段階を含む方法。

43. 植物の特徴に影響を及ぼす方法であって、植物の細胞内で請求項21～23のいずれかに記載の異種性核酸からの発現を引き起こすか可能にする段階を含む方法。

44. 請求項1～3のいずれかに記載の核酸のトランスジェニック植物の作出での使用。

45. 請求項4～7のいずれかに記載の核酸のトランスジェニック植物の作出での使用。

46. 請求項8または9記載の核酸のトランスジェニック植物の作出での使用。

47. 請求項10～16のいずれかに記載の核酸のトランスジェニック植物の作出での使用。

48. 請求項21～23のいずれかに記載の核酸のトランスジェニック植物の作出での使用。